

平成23年度 「金属屋根工事技士」 技術審査 受験のご案内

(社)日本金属屋根協会では、平成23年度の金属屋根工事技士技術審査を下記により実施します。
受験をご希望の方は所定の手続きをお取り下さい。

～ 技術審査の方法が変更になっています ～

これまでの技術審査では、受験者の方々には「受験準備講習会」を受講の上、審査を受けていただ
いておりました。このため、受験者の方々に時間的、費用的に負担をおかけする結果になっていま
した。

この負担を軽減するために、技術審査を以下のように変更しております。

- ① 受験準備講習会を廃止しました。
- ② この代替措置として、これまでの出題問題を整理した「試験問題集」を受験者の方々にテキスト
とともに配布します。

審査日 平成24年3月10日(土) 13:00～16:30
場 所 札幌、仙台、東京、大阪、福岡

※会場及び時間等は受験通知書をもってお知らせします。

[金属屋根工事技士の位置付け]

金属屋根工事技士は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の『建築工事監理指針』において、以下のよう
に金属屋根工事の専門技術者として位置付けられています。

金属屋根工事の計画立案から施工管理まで担当する専門技術者の一例として、(社)日本金属屋根協会では、
昭和61年度より「金属屋根工事技士」の育成・教育に取り組んでいる。

『建築工事監理指針』(平成22年度版)下巻 第13章屋根及びとい工事(抜粋)

1. 受験資格

金属屋根工事技士技術審査は、金属屋根工事について次の実務経験を有する者が受験することができます。

学歴又は資格	必要な実務経験年数		
	起算	指定学科を卒業した者	指定学科以外を卒業した者
1. 新制大学又は旧制大学を卒業した者	卒業後	1年6箇月以上	2年6箇月以上
2. 短期大学・高等専門学校(5年制) 又は旧制専門学校を卒業した者 専修学校において指定学科を卒業 した者	卒業後	2年6箇月以上	3年6箇月以上
3. 新制高等学校・旧制中等学校又は旧 制実業学校(甲種)を卒業した者	卒業後	3年6箇月以上	5年6箇月以上
4. その他の者	卒業後	8年以上	

(注1) 指定学科とは建築学、土木工学、機械工学、設備工学及びそれに準ずる学科。

(注2) 実務経験年数は、平成24年3月31日(現在)で算出して下さい。

2. 申し込み書類

- (1) 受験申込書 同封の申込用紙に所定事項を記入のうえ、写真貼付のこと。
(記入は正確にして下さい。不明のものについては書類審査で失格することがあります。)
- (2) 卒業証明書あるいは卒業証書(コピー)
 - 受験資格のうち、(1)(2)(3)の学歴に相当する方で実務経験が8年に満たない方は、卒業証明書
もしくは卒業諸処(コピー)を提出して下さい。

3. 審査料

18,000円 (テキスト代含む)

申込と同時に下記あてに送金下さい。送金のない場合は受験できません。企業にて一括して納入する場合は、受験者の名前を提出して下さい。送金料はご負担願います。

送金先 三菱東京UFJ銀行日本橋中央支店 普通預金 口座番号0161693 (社) 日本金属屋根協会

4. 受験申込書類の受付期間と提出先

①受付期間 平成23年12月6日～平成24年2月10日(当日消印有効)

②提出先 〒103-0012 東京都中央区日本橋掘留町2-3-8 田源ビル

社団法人 日本金属屋根協会 事務局

#「テキスト」と「試験問題集」は、申込みがあり次第発送しますので、なるべく早めにお申込み下さい。

5. 出題範囲

分野	範囲
(1) 基本知識 20問	法令、規則に関する概ねの知識・建築に関する一般知識・金属講法に関する一般知識
(2) 専門知識 40問	施工計画/加工・成型/材料・外注/荷揚・養生/輸送・保管/取付・施工/機械設備/品質管理
(3) 記述式	工事経験などに関する記述

6. 資格の認定と更新

①資格の認定 技術審査の合格者は認定申請書を提出して「金属屋根工事技士」の認定を受ける必要があります。 ◆認定料 6,000円(認定証書、携帯用証明書を交付)

②資格の更新 資格の有効期間は3年間で、義務講習会の受講をもって更新します。

7. その他

納入された審査料については原則として返還致しませんので御注意下さい。

金属屋根工事技士とは

金属屋根工事技士の資格は、一定の実務経験を積み金属屋根工事に関する専門知識を習得した後に「金属屋根工事技士技術審査」に合格したものに与えられます。「金属屋根工事技士技術審査」は、金属屋根・外壁の加工・施工業者の団体である(社)日本金属屋根協会が昭和61年度から実施し、現在1700名超の金属屋根工事技士の方々が、金属屋根の設計・施工管理に活躍しています。

金属屋根工事技士のこれまでの流れ

この資格制度は、台風や豪雪によって金属屋根に生じた様々な被害の反省の上で制定されたものです。特に昭和50年の台風13号は最大瞬間風速67.8m/秒を記録した非常に大きな台風で、八丈島を中心に金属屋根などに大きな被害をもたらしました。

金属屋根業界では、このような被害を未然に防止するために、建設省(現:国土交通省)の指導のもとに業界共通の設計・施工規準として「鋼板製屋根構法標準」を昭和52年に制定しました。

当協会では、この規準のもとに設計・施工管理に関する教育プログラムを作成し、大型建築物の金属屋根の施工管理者を育成するために、「金属屋根施工管理士制度」を昭和54年に発足させました。

その後、建設省の「長尺金属屋根工事に関する知識及び技術の審査・証明事業認定規程」(昭和61年4月18日建設省告示第986号)に基づき、同年5月1日付で建設大臣が認定する「金属屋根工事技士技術審査」制度となりました。

この建設大臣による認定は、平成12年の「行政改革大綱」により、当協会などの全ての公益法人が国からの委託等を受けて実施している認定事業に対する国の関与を廃止することが決められたことにより、当協会が独自に運営する資格制度となっています。

受験についての問合せ先

社団法人 日本金属屋根協会

〒103-0012

東京都中央区日本橋掘留町2-3-8 田源ビル

TEL.03(3639)8954 FAX.03(3639)8932

<http://www.kinzoku-yane.or.jp>

当協会では、金属屋根の設計・施工管理の具体的なツールとして「風圧力算定ソフト」、「金属屋根工事の施工チェックリスト」、「風と金属屋根」、「屋根改修工事の手引き」などを作成し、金属屋根工事技士の役割を支援し、より高品質の金属屋根を作り上げようとしています。平成16年度には強度計等や断熱計算などが行える計算ソフト「屋根を調べる」、金属屋根・外壁の素材を解説した「素材からみる金属屋根と外壁」を発行しています。平成20年度には「鋼板製屋根構法標準」(SSR2007)も発行しました。

これらの概要は、当協会のホームページをご覧ください。

金属屋根工事技士による「工事監理報告書」の提出

平成15年度より、金属屋根工事技士による「工事管理報告書」の提出をはじめています。これは、「工事管理報告書」を提出することにより、施主や元請に対して金属屋根工事技士の責任を明確にするとともに、金属屋根工事技士が在籍する企業とそうでない企業の“差別化”を図ろうとするものです。

金属屋根工事技士の方々には、「工事管理報告書」を簡単に作成できるコンピュータソフトの配布もはじめています。

◎工事管理報告書 見本

©(社)日本金属屋根協会

提出番号	号
日 付	平成 年 月 日

殿

提出企業	
担 当 者	
TEL・FAX	
E-mail	
住 所	〒

工 事 管 理 報 告 書

本工事は、金属屋根工事技士により、管理したことを報告します。管理内容は、次ページに記載してあります。

管理者名	金属屋根工事技士No.

工事名			
着工日	年 月 日	引渡検査日	年 月 日
完工日	年 月 日	元請立会者	

	数量	主たる構法	素材・板厚	断熱材・厚さ
屋根	㎡			
外壁	㎡			
とい	m			

添付書類	
------	--

特記事項	
------	--

以 上

切り取って提出して下さい。

金属屋根工事技術審査申込書

標記審査を受けたいので下記の通り申込みます。

希望会場： 札幌 仙台 東京 大阪 福岡 (○印をお付け下さい)

受験者	フリガナ		本籍		都道府県
	氏名	Ⓜ	生年月日	昭和 平成	年 月 日
	住所			Tel	()
勤務先	社名		Ⓜ	Tel	()
	所在地	〒		Fax	()

最終学歴	学校	学部	学科	卒業年月日	昭和 平成	年 月 日
実務経験 年数および 職歴	勤務先					年 月 日
						年 月 日
合計						年 月 日
年 月						年 月 日

実務経験及び学歴等記載内容に事実と相違のある場合は取消しとなります。

金属屋根 工事関連 取得資格	取得年月	資格名	取得年月	資格名(その他)
	年 月	建築士 () 級	年 月	
	年 月	建築施工監理技士 () 級	年 月	
	年 月	技能士 () 級	年 月	

協会記入欄

受付期日	審査	認定	写真 タテ 3.0 cm ヨコ 2.5 cm 裏面に氏名を 明記のこと。
年 月 日		年 月 日	
整理番号	号	認定番号 第 号	
特記事項			